



これからの飛騨市の 農業を考える

飛騨市の自然の恵みがおいしい理由

豊かな自然の真ただ中にある飛騨市。その面積の93%以上を森林が占めており、そのうちの7割が天然の広葉樹とされています。

静かに、ゆっくり、じっくり育つ広葉樹の成長には膨大な歳月を要します。その間に広葉樹は地中の奥深くまで複雑に根を張り巡らせ、周囲の土から栄養となる成分をしっかりと吸収します。落ち葉が堆積して腐葉土となり、そこにたまったミネラル分をはじめとする豊かな栄養分は、雨などの水を通じて支流へ、川へ運ばれ、そして水田や畑へ引かれることで作物の中へ取り込まれることとなります。

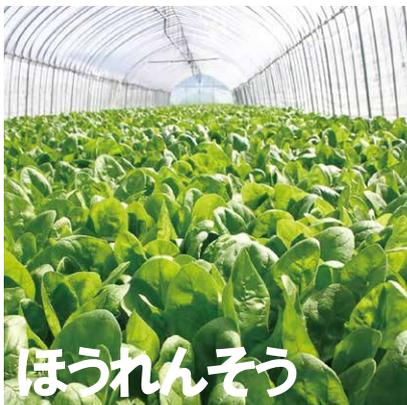
また、標高が高く、朝晩の寒暖差が大きいことが野菜の成長に影響を与え、特別な甘みや滋味をたたえた作物が生まれます。飛騨市の農産物がおいしい理由は、こうした豊かな自然の恩恵であり、それをしっかりといただくことで、私たちの食生活や健康を支えてくれています。近年、そうした飛騨市の農産物が脚光を浴びつつあります。

高評価の飛騨の農産物



トマト

雨除け栽培によって管理されるトマトは病気や障害に強く、品質がよい。8月の京阪神市場で約4割が岐阜県産トマト。※



ほうれんそう

朝晩の寒暖差によって甘い。8月の京阪神市場で約8割が岐阜県産ほうれんそう。※



米

米の総合的な美味しさを競う「米・食味分析鑑定コンクール」等で金賞を受賞

※令和2年度JAひだ販売額内訳より



農地と担い手

地域で取り組む獣害対策や農地の検討

山に囲まれた市内には急傾斜地が多く、大規模生産には向いていない農地が多いことや、小規模農家や兼業農家、自家消費の農家が多く、それぞれの農地が点在していることから非効率的な状況を強いられています。また、生態系が豊かなため、猪やカモシカ、猿、熊など鳥獣による被害に遭いやすいことも挙げられます。

市では、地域の皆さんとの話し合いの場を設けながら、市内の農地の集約化を図ることで、それぞれの農地面積の拡大を図り、営農者の効率化を促進したり、生産量のアップやコスト削減につなげる取り組みを進めています。

また、鳥獣害から農作物を守るための電気柵や監視カメラの設置、わなの設置にかかる費用への補助なども実施。定期的な講習会なども開催しています。



カモシカや猿を見かけたことはありませんか？



防護柵などの対策をして農産物を守っています。



各地でのこれからの農業のあり方についての検討会

飛騨市で応援する就農

農業の分野でも、農業従事者の高齢化が進行し、人口減少による就農者の減少、担い手不足が慢性化しています。

こうした中、市が着目しているのが、さまざまな機器やICT技術を用いた省力化です。限られた人員体制の中でも、より多くの作業をこなしたり、熟練技術がないとできない作業をデータ化・見える化することで初心者にもできるようにするなど、高齢化や人手不足に対応できるように専門機関や市外の民間企業と連携しながら検証、実践を進めています。

さらに、市では他地域からの新規就農者の確保に取り組んでおり、就農後自立した経営をしていく力を身につけるための研修制度や定期的に圃場を確認し、都度助言や困りごとを聞く相談員の配置などサポート体制の強化も図っています。



県・J A・市が一体となり、新規就農者や後継者をサポート



※出典 2020世界農林業センサス

飛騨市の専業農家は4.9%に過ぎず、経営規模の小さい自給的農家や兼業農家が約9割を占めており、農業への関わり方は多様です。高齢化に伴う離農者の増加が懸念されています。

持続的な農業と美しい風景のために

受け継がれてきた里山風景や豊かな自然は農業で支えられているとあって過言ではありません。農業とまちの美しい風景を守るために新たな挑戦も進めています。

スマート農業への挑戦

就農者が減少傾向にある中でも、少ない人員で持続可能な農業経営を行うには、ICTやAI、ロボット技術などを用いた「スマート農業」が注目されています。これまで行ってきた実証実験やさまざまな取り組みを今年度もさらに進め、気象データや衛星写真データを活用した新たな技術を導入していきます。



効率的な農業で負担を軽減

人工衛星技術を利用し1km単位で水稻の生育状況を把握できる営農支援システムを導入します。出穂期や収穫適期を予測する機能により、経験の浅い農業者でも適切な栽培を行えるよう活用します。また、KDDI(株)と連携し、実証実験を進めてきた水田センサーによる水管理省力化の普及を図ります。



兼業や生きがいなどの多様な農業のあり方

大切な農地を保全していくためには、専業農家ばかりでなく兼業農家や生きがい農家などより多くの方が長く広く耕作できる環境を整えていくことが必要です。中高年者を第二の担い手世代と位置付け、一定以上の経営規模で出荷を行う方に対する給付金や農機具の購入支援を行います。

飛騨市で活躍する若手農業者

古川町 前田啓詞さん(トマト農家)

東京農業大学を卒業後、JAひだ飛騨地域トマト研修所の一期生として2年間、学ばれました。今はトマト農家として独立され、6シーズン目を迎えられました。



「トマトは、一定の規模までは一人でもできる」という先人の言葉にひかれたそうです。「コツコツ積み重ねることは苦手。自分が決めたルールの中で好きなようにやりたい」という前田さん。試行錯誤を経た今、トマト栽培のメリットを最大限に生かし、できるだけお金をかけず、自分なりに生産性・効率性を追求する農業に取り組んでいるそうです。

やりがいは「残業している時!」。1日12時間、暗くなってもヘッドライトを点けて黙々と作業をしているとき、「生きてる!」と実感が湧くそうです。「トマトに憑りつかれてるんでしょうね」と、いたずらっぽく笑う前田さん。日々変化する自分の気持ちを大事にしながら、マイペースで取り組んでみえます。

オフの冬場は何もしないそうですが、一方でヤギやニワトリを飼ったり、株式投資の勉強をしたりと意欲的。トマト栽培の規模は抑えつつ、今年はイチゴ栽培や養蜂にも挑戦されるそうです。

あなたも農業をお手伝いしてみませんか?



市では、営農規模の拡大や維持を支援するため、農業関係の求人に関する詳しい情報を市のホームページに、農業アルバイト参加者の生の声や始めたきっかけなどを掲載しています。

ぜひご覧ください。



問 農業振興課 ☎ 0577-73-7466